PICKIN' SINGIN' GINZA

Rocky Top かわら版 第67号

'01, 6, 4 (月) 発刊

Yeah! マネージャー No.26 ~VS事件~

作, チーフ井上

拝啓 June…

じとじと梅雨の季節がやってきます。「満員電車で傘の群」最も嫌なパターンですね。「濡れたオッサンの肌に触れ」これも嫌ですね。あー、一句できてしまった。ではもう一句

梅雨空をしのいで銀座七丁目

ロッキートップはサニーサイド・オブ・ライフ

人気のジャンバラヤ、メキシカン野菜いため

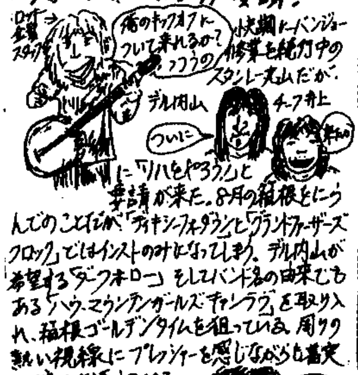
ロッキーの辛口メニュー、ジャンバラヤ、メキシカン野菜いためが好評だ。ここ最近ちゃっかり定番メニューとなり、リピーターも増加している。どちらにもメキシコ風に味付けしたひき肉が使われているのが特徴だ。マネージャーが研究を重ね、口内炎になるまで辛さと戦った甲斐があったもんだ。しかし「ジャンバラヤにわらびいれるから」と言われた時はびっくりした。さすがにみんなで猛反対しました。結局アボガドに落ち着きましたが、今でも「確かに入ってたな 俺が食ったのにはわらび…」と未練がましく言います。絶対違うものだと思うのですが、何か幻を見ているのかもしれません。ま、とにかく皆様、まずは一度御賞味あれ!!

今月の田口マスターの動き

利根川落下事件…去るゴールデンウィーク、田口マスターは利根川河川敷にブルーグラスの仲間数人と釣りに出かけた。そしてみんなとはべつのポイントを思いついた彼は別行動し、マニアックな場所にたどり着いた。そこは崖のようになっていたが?「いかにも釣れそうだぜ」と感じた彼は少しコケのあるその土手を下り出した。そして最後の一歩に至ったその時!? おそるおそる

と見事に落下した。携帯電話はダメになり、パンツも何もかもびしょ濡れになった。携帯に関しては今までの防水加工から安い防水じゃないのに変えたばかりのことだった。「裏目に出る」もう、彼の人生の本質だ。エミールストーンも幸福のひまわりの種も今だに持ち歩いているが全く効果なしだ。そのくせ「効かないんならくださいよ」と言うと「いや!まだ分かんねーだろー」と相変わらず往生際の悪さを見せてくれた。

スタンレー丸山からリハ要請!



快調にバンジョー修業を続行中のスタンレー丸山だが、デル内山、チーフ井上に「リハをやろう」と要請が来た。8月の箱根をにらんでのことだが、「ディキシーフォーダウン」と「グランドファーザーズクロック」ではインストのみになってしまう。デル内山が希望する「ダークホロー」そしてバンド名の由来でもある「ハウ・マウンテンガールズ・キャンラヴ」を取り入れ、箱根ゴールデンタイムを狙っている。周りの熱い視線にプレッシャーを感じながらも着実に彼は成長している。

今年の夏はスタンレー丸山とハウマウンテン お祭りで決まりだ!

ドブロの小島さんも注目している → 「楽しみだね」

21世紀に残したい、ロッキートップ事件簿

~ロッキースタッフ烈伝②~

変わった奴らの宝庫、ロッキートップ

吉村 寛(ひかる)…何度も一時抜け、来ては消え、来ては消えながら結局足かけ7年ほど働いていた名物看板娘。芝居をやったり歌ったり色々中途半端にこなしたがダンスは長続きし今もライフワークとして続けている。

「もうすぐ母親になります」

昨年入籍し、8月にはついに母親になるひかるちゃんはかつてお客さんに「このビーフマウンテンってどんな料理?」と聞かれ「おすすめできません!」という名言を吐いたことがある。ロッキー15周年のヤクルトホールではスタッフバンドのリードボーカルをつとめ、微動だにしない観音菩薩のようなステージングは見る者まで緊張させた。「♪ロッキートップ テネシー♫」それにしてもあのひかるちゃんがお母さんになるなんて…。ま、優しい人であるのは間違いないから優しい子供を育てることと思います。いつか赤ちゃんを連れてロッキーに遊びに来てくれるのを心よりお待ちしております。

大霜くん…一時期スタッフ不足におちいり、フロームAで募集をかけたことがある。その時に入ってきた2人。大霜は九州小倉出身の学生だった。かん高い声が耳につく奴だった。けっこういちゃもんをつける奴で「うるせーんだよ」と小柳さんに言われもした。やがて車の合宿免許のために長期休暇したまま去ってしまった。今頃どうしてることやら…

元村くん…つねにびくびくしていて「すいません」を連発する男で「すいません」「すいませんって言うなよ」と言っても「すいません」と答えてしまう奴だった。結構世間知らずで「チョリソ」のことを「チョリソン」と言ったり、カクテルバーで働いてます、と言うわりにはジントニックが作れなかったりと、何とも[illegible]男だった。会社の都合で転勤となり、東京を離れてしまったが、今頃どうしてることやら…。長くいると色んな奴らが脳裏をかけ巡ります。みんな何かの縁があったはずだよね!

チーフ井上の北朝鮮紀行⑨

~金日成の遺体~

日本へ向けて出発の日の午後、金日成の遺体が安置されてる所へ行った(名前忘れました)。ちょっとでかい建物、昔で言えばピラミッドや古墳といった所だろう。ものすごい金をかけてることが分かる。巨大なシャンデリア、床は大理石、入口に入ってから遺体の場所にたどりつくまで30分歩くという建物だ。しかもその間に何度か金属チェックされる。俺は「ピー!」と機械が鳴ってしまい兵隊によるチェックを受ける「何でだよー!顔で判断してねーか」兵隊を見てると昔の日本の天皇と陸軍の関係を思い浮かべてしまう。そして御遺体と対面! その部屋に入るなり、壮大なクラッシックの曲が流れ、どでかい部屋の真中にライトアップされた金氏の剥製が横たわっていた。俺達は4人ずつ組まされて近づき4隅に一礼ずつ、計4回おじぎをした。おそるおそる見た金日成は大柄な体に高そうな背広をまとい、静かに目を閉じていた。この男が朝鮮を動かし、チュチェ思想というアイデンティティをもたらしたのか……。「金日成の死がいかに悲しいことか」と大げさな演技でまくしたてるガイドの[illegible]だった。「床の大理石に刻まれているのは我々朝鮮人の涙です―!」と叫んでいた。「この場所だけは正義です」と言われてしめた慣れないネクタイが妙に息苦しく感じた。このはりぼての王国の下には筆さえ買えない貧しい人民がひしめいているのだ… 次回は最終回。元山での別れ

ロッキートップのHPはYahoo, goo, infoseek, excite, lycosで「ロッキートップ」で検索できます!